学校番号	２１０２

令和３年度福祉科

教科	福祉科	科目	社会福祉基礎	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	社会福祉基礎（実教出版）						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

授業では、「少子化と高齢化」、「コミュケーションについて」、「外国の福祉・社会保障制度」、「日本の社会福祉発展の歴史」、「日本の社会保険制度・生活保護制度」、「障がい者の理解と障がい者の自立支援制度」といった内容を学んでいきます。多岐にわたる内容を学ぶのがこの科目の特徴です。制度や理論の学習が全般的に多い科目です。公民科の政治経済や現代社会が好きな人に向いています。制度や理論を扱うのでゆっくり進んでいきます。特に授業で紹介する制度については、生徒の皆さんも生活の中で必ず関わりをもつことになります。内容を暗記するのでなく、理解するように努めて下さい。活きた知識になると思います。

２　学習の到達目標

社会福祉に関する基礎的な知識を習得させ、現代社会における社会福祉の意義や役割を理解するとともに、人間としての尊厳の認識を深め、社会福祉の向上を図る能力と態度を自ら育む。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	社会福祉に関する諸課題について関心をもち、その改善向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身につけている。	社会福祉に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技能をもとに、福祉に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけている。	社会福祉の各分野に関する基礎的・基本的な技能を身につけ、福祉に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用することができる。	社会福祉の各分野に関する基礎的･基本的な知識を身につけ､社会福祉の意義や役割を理解している。
評価方法	授業への出席状況、学習状況の観察（特に実習への取り組み方)・ワークシートや振り返りシートの記述・レポート	授業への出席状況、学習状況の観察（特に実習への取り組み方)・ワークシートや振り返りシートの記述・レポート	授業への出席状況、学習状況の観察（特に実習への取り組み方)・ワークシートや振り返りシートの記述・レポート	授業への出席状況､学習状況の観察(特に実習への取り組み方)・ワークシートや振り返りシートの記述・レポート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	社会福祉の理念と意義	・生活と福祉 ・社会福祉の理念 ・人間の尊厳と自立	○	○ ○	○	○ ○	a：社会福祉の在り方や理念について、知識をもち、自らもその実現の一端を担おうとする想いをもつ。 b: 社会福祉の在り方や理念について、それらが個人的・社会的にどのように現れてきているか、具体的な事例を通して理解している。 c: 社会福祉の在り方や理念について、知識をもち、自らもその実現のための行動をとることができる。。 d: 社会福祉の在り方や理念について、日本国憲法や社会福祉法、近年の国際的な福祉の考え方などを取り上げ、経済的救済中心から自立生活支援へと変化してきたことを具体的な事例を通して理解している。	授業への出席状況、学習状況の観察（特に実習への取り組み方）・ワークシートや振り返りシートの記述・レポート
	人間関係とコミュニケーション	・人間関係の形成 ・コミュニケーションの基礎 ・社会福祉援助活動の概要	○	○ ○	○	○ ○	a:社会福祉援助活動には、適切・円滑なコミュニケーションが必要であることを理解し、様々なコミュニケーションの技法について興味・関心をもっている。 b: 高齢者や障がいのある様々な人々の特性や介護に関わる家族の置かれた状況をふまえ、どのようなコミュニケーションをとることがふさわしいか自ら考えることができる。 c: 言語的コミュニケーションのみならず、非言語的コミュニケーションの重要性、コミュニケーションのもつ意義や役割を理解し、コミュニケーションの基礎的な技法を身につけている。 d: 傾聴や受容、共感、援助者としての自己覚知や他者理解といった概念を事例を通して理解し、対人援助に必要な人間の理解や人間関係を構築させるための技法について理解している。	授業への出席状況、学習状況の観察（特に実習への取り組み方）・ワークシートや振り返りシートの記述・レポート
	社会福祉思想の流れと福祉社会への展望	・外国における社会福祉 ・日本における社会福祉 ・地域福祉の進展		○ ○ ○		○ ○ ○	a:日本の社会保障制度のみならず、諸外国の社会保障制度にも興味をもち、両者の制度比較などに関心がある。 b:日本と諸外国の社会保障制度を比較し、その優劣や長所・短所を考えることができる。 c:外国の社会保障制度などに関心を持ち、そのニュースなどを理解することができる。 d:日本や外国の社会保障制度や日本における社会福祉思想の発展について、特に社会福祉が制度として確立していく明治期以降の歴史を理解している。	授業への出席状況、学習状況の観察（特に実習への取り組み方）・ワークシートや振り返りシートの記述・レポート

	生活を支える社会保障制度	・社会保障制度の意義と役割 ・生活支援のための公的扶助 ・児童家庭福祉と社会福祉サービス ・高齢者福祉と介護保険制度 ・障害者福祉と障害者自立支援制度 ・介護実践に関連する諸制度	 ○ ○ ○ ○ 	○ ○	 ○ ○ ○ ○ 	○ ○	a：日本の社会保障制度について、広く関心を持ち、現在の状況や今後の動向等にも興味を持っている。 b:日本の社会保障制度について、現制度の内容を理解し概要を述べることができる。また今後の制度の在り方などについて自分の考えを持ち、表現することができる。 c: 生活保護制度や介護保険法などによるサービスの内容を理解し、実際にサービス利用が必要になった時には利用するための手順を理解している。 d: 日本の社会保障制度を構成する社会保険・公的扶助・社会福祉・公衆衛生などの制度の内容を、憲法２５条等と関連させながら、理解している。	授業への出席状況、学習状況の観察（特に実習への取り組み方）・ワークシートや振り返りシートの記述・レポート

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。